



図書館まつりで披露された紙芝居

江戸後期、水不足に苦しむ農民たちを救うために尽力した旧加養村の稲葉儀衛門ら3人の功績を伝えようと、市図書館ボランティアしもつまの対面朗読グループ「シモン」と図書館職員が協力して制作した「江連用水の三義人」が図書館まつりで初披露されました。

紙芝居は、元小学校校長の青木尚さん(宗道)が物語を作成。図書館職員が下絵を書き、ボランティアメンバーが色付けを担い、完成まで何度も検討を重ねた紙芝居は表紙を含め13枚あり、約2年で仕上げられました。

グループ代表の黒川玲さん(今泉)は、「小さい子も一生懸命聞いてくれた。小学生向けに作ったので、郷土の偉人の話として活用してもらいたい」と初披露の感想を話しました。

三義人の功績伝える紙芝居
図書館ボランティアらが制作・披露 11月10日

11月11日、政治家、実業家、教育者という多彩な顔を持つ、市内黒駒出身の飯村丈三郎(1853~1927年)の業績を伝える同研究会主催のシンポジウムが市立図書館で開催されました。郷土のため銀行再建、鉄道敷設などに尽力した飯村の数々の偉業を聴講しようと約170人が集まりました。

下妻市では初開催となった郷土の偉人のシンポジウムは、飯村の激動の生涯を伝える講演が行われ、会場は席が足りず、急ぎ椅子を増やす盛況ぶりでした。

大津順一郎会長は「飯村丈三郎先生は地域の資源。もっと多くの人に知ってもらいたい」と思いを伝えていました。



多くの聴講者が集まったシンポジウム

彼がいたから、現在(いま)がある
飯村丈三郎シンポジウム2018 11月11日



恩師から思い出を受け取る卒業生たち

豊加美小学校創立130年事業として、8月11日に卒業生などにより開封された30年前のタイムカプセルに込められた当時の思い出を手渡すタイムカプセル開封式典が同実行委員会(木村穂摘委員長)により同校体育館で開催され、卒業生や地域住民など約200人が集まり30年の時を越えて当時の自分たちと“再会”していました。

式典では、当時の学年ごとに整列した卒業生が恩師から呼名され、タイムカプセルから取り出された作文などが手渡されていました。

木村委員長は「バラバラになった“とよっ子”たちが集まったことに感謝します。これをきっかけに人が集まり地域の力なれば」と地元への思いを話してくれました。

豊加美30年の時空を越えて
豊加美小タイムカプセル開封式典 11月3日



平岡さんに投げの指導を受ける児童(高道祖小体育館)

2020年東京大会に向けて、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めようと市内3小学校で、講演会や正式種目競技の実演などが行われました。

10月23日、大宝小学校では元キャビンアテンダントで筑波大学客員教授の江上いずみさんを迎え「グローバルマナーとおもてなしの心」の講演会が行われ、児童たちは海外からの来訪者へのあいさつや振る舞いなどを学んでいました。

10月26日、高道祖小学校ではロンドン五輪柔道男子60kg級銀メダリストで筑波大学助教授の平岡拓晃さんを迎え「失敗=ダメじゃない」を演題とした講演の後、柔道を習う同校児童4人が実演に登場し、黒帯の大人を投げて大きな拍手を受けていました。

11月29日、下妻小学校ではWaiwaiドームしもつまを会場にして、地元出身のスケートボードオリンピック候補選手の吉川楓さんを迎え講演と実技が披露されました。吉川さんとスケートボードが一体となった技が繰り出されるたびに会場から歓声が上がっていました。

2020東京五輪に向けて児童らが体感
オリンピック・パラリンピック教育推進事業 10月23・26日、11月29日

おそろいの法被でおもてなし

第8回下妻街並みウォーキング 11月23日

2009年に発足して10年目を迎える観光ボランティアガイド「下妻いいとこ案内人の会」が主催する「第8回下妻街並みウォーキング」が11月23日に開催されました。

午前中に2回開催されたウォーキングには、市内外から44人が参加。日本基督友会の伝道師として来日し、大正9年に日本基督友会下妻月会を設立したガーネーとエリザベス・ビンフォード夫妻が住んだ「ビンフォード邸」や名邸・沼尻住宅「六芳園」が公開され、「六芳園」の大広間では、琴や尺八の演奏会が披露され、参加者を魅了していました。

参加者たちは、市イメージキャラクター「シモンちゃん」が背中にプリントされた新作の法被を着た同会員の案内とおもてなしを受けながら秋の1日を楽しんでいました。



ビンフォード邸の案内をうける参加者



富士山に見立てた特作の前で記念撮影する七五三詣の参拝者

下妻の秋の風物詩となっている恒例の「第33回下妻市菊まつり」が、大宝八幡宮の境内で11月1日から25日まで開催され、菊の愛好家や七五三の晴れ着姿の参拝者などでにぎわいました。

会場には、下妻市菊花会(大月詮雄会長)の会員が丹精込めた力作約500鉢が展示され、多くの参拝者を楽しませていました。

特に、大小さまざまな菊で組み合わせ富士山をイメージして飾られた特設展示場の「特作」は、作品の前で記念写真を撮るなど人気でした。

また、「さん歩の駅サン・SUNさぬま」の広場ステージでも同会による約150鉢が展示され、大輪の菊花が秋を彩り、砂沼湖畔に訪れた人を楽しませていました。

丹精込めた菊 秋を彩る
第33回下妻市菊まつり 11月1~25日



技を披露する吉川さん(Waiwaiドームしもつま)

有料広告欄